

第61回神奈川県合唱祭報告

会場：相模女子大学グリーンホール

出演日時：2018年6月09日（土）

演奏曲：「柳河風俗詩第二」から散歩、「Deuxieme Messe(ミサ曲第二番)」から Sanctus

出演者：19名

指揮：鷹巢 誠一

ピアノ：櫻井 由理

トップテナー：三枝（康）、船橋、田中（秀）、田辺、生方
セカンドテナー：飯田、田中（利）、菅原、岡本
バリトン：小池、蒲谷、福井、岡田
ベース：柿崎、宮野、牧、志澤、伊東、相原

講評者の先生方から講評を頂きました。先生方の経歴などは第61回神奈川県合唱祭のプログラムをご覧ください。

講評者	講	評
土屋 広次郎 先生	深さと高さのある柔らかなハーモニーは、言葉もはっきりとしていて、のどかな柳川の風景を船で下りながら見ているようでした。 Sanctusになると、力強さが加わり聴きごたえのある2曲でした。	
大熊 崇子 先生	重厚で柔らかな、そしてあたたかいハーモニーを心地よく聴かせていただきました。 散歩・・・言葉を大切に、そしてフレーズをていねいにまとめていらっしゃいましたね。ハーモニーのトーン、良くまとまりバランスも良かったです。 Sanctus・・・堂々とした歌いっぷり、見事でした。 いつまでも若々しく、楽しんで歌い続けて下さい。	
金川 明裕 先生	王道の男声合唱団、音色のやわらかさが光ります。Tenor.1のpitch感の良さも特筆に価します。是非、Bass系も見習いましょう。ハーモニーの精度がさらに上がると思います。 グノーの「第2ミサ」久しぶりに聴きましたが、オルフェオン運動の中で生まれた名曲、もっと歌われていい作品だと再確認しました。	

出場団体の皆様からもコメントを頂きました。

団体名	
コーロ・しるふれい様	長年合唱に親しんでこられた様子から歌への愛が感じられました。男声合唱の重厚感、荘厳さ、各パートが揃い心地よい合唱でした。2曲が全く別のジャンルでそれぞれに趣がありましたが、個人的には多田武彦さんの世界観とアカペラが日本語の歌詩が、深く心に響きました。そして特にテノールの歌声がブラボー！でした。
横浜紅葉丘合唱団様	やわらかなハーモニー。暗譜しかもアカペラとはすばらしい。2曲目は、相当歌いこなしている感じで男声合唱らしい響きが良かった。